

# EUROPEAN PATENT OFFICE

## Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 08333939  
PUBLICATION DATE : 17-12-96

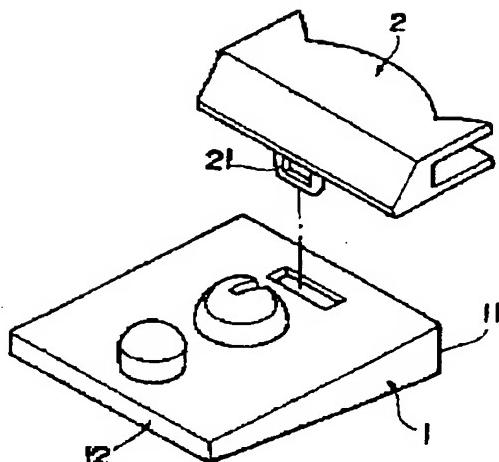
APPLICATION DATE : 06-06-95  
APPLICATION NUMBER : 07161599

APPLICANT : M & K YOKOYA:KK;

INVENTOR : YOKOYA MASAAKI;

INT.CL. : E05B 65/52 A45C 13/10

TITLE : LOCK METAL FOR PORTFOLIO



ABSTRACT : PURPOSE: To smoothly couple and hook the hook of the closing metal of a cover plate nearly at the parallel state while in use by forming the upper end section of the lock metal main body of a portfolio thicker in thickness than the lower end section.

CONSTITUTION: A lock metal main body 1 storing a hook mechanism is slantly formed so that the side face shape is made thicker in thickness at an upper end section 11 than at a lower end section 12 while in use. The lock metal main body 1 thus formed is fitted to the upper front of a portfolio, and a closing metal 2 removably coupled with the lock metal main body 1 is fitted at the position facing the lock metal main body 1 at the tip of a cover plate. Since the lock metal main body 1 is inclined nearly in parallel with the inserting direction of the hook 21 of the closing metal 2, the hook 21 can be smoothly coupled and hooked.

COPYRIGHT: (C)1996,JPO

BEST AVAILABLE COPY

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-333939

(43)公開日 平成8年(1996)12月17日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>  
E 05 B 65/52  
A 45 C 13/10

識別記号 庁内整理番号

F 1  
E 05 B 65/52  
A 45 C 13/10

技術表示箇所  
K  
N

審査請求 有 請求項の数1 FD (全3頁)

(21)出願番号 特願平7-161599

(22)出願日 平成7年(1995)6月6日

(71)出願人 390022482

株式会社エムアンドケイ・ヨコヤ  
東京都台東区浅草橋2-1-9

(72)発明者 横谷 晶明

東京都台東区浅草橋2丁目1番9号 株式  
会社エムアンドケイ・ヨコヤ内

(74)代理人 弁理士 橋高 郁文

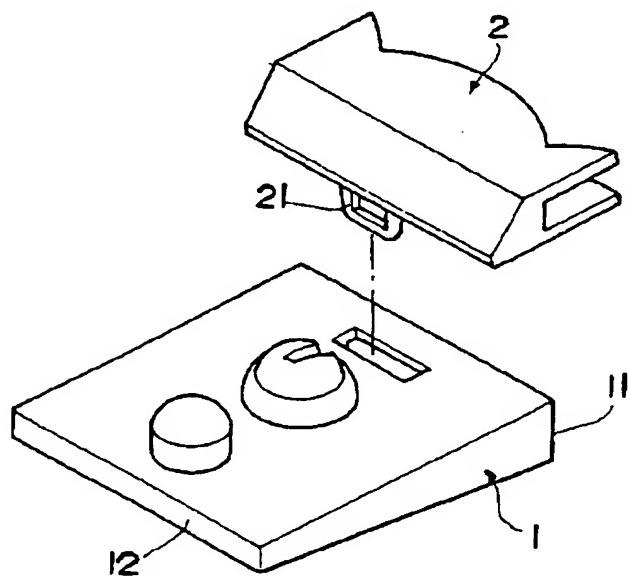
(54)【発明の名称】 鞄用の錠金具

(57)【要約】

【目的】 鞄の蓋板を閉止する時に、閉止金具が錠金具本体に対して平行な状態を維持し適切に嵌合係止できるようとする。

【構成】 鞄本体に取付ける錠機構の本体部分が、側面形状において、上端部を肉厚に形成する。

【効果】 錠金具の上端部を肉厚に形成したので、鞄の蓋板部に取付けた閉止金具が錠金具本体と平行となりスムーズに嵌合閉止できる。



BEST AVAILABLE COPY

1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 鞄本体に装着する錠金具本体と、鞄の蓋板部分に取付ける閉止金具との組合せからなり、錠金具本体の側面形状が、使用時における下端部の肉厚に対し、上端部の肉厚が著しく厚くなるよう傾斜させた構造としてなる鞄錠の錠金具。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明鞄用の錠金具に関するものであり、特に鞄の蓋板を閉止する時に蓋板に取付けた閉止金具が錠金具本体に対して平行な状態を維持しながら閉止嵌合できるよう構成した鞄用の錠金具に関するものである。

## 【0002】

【従来技術】 一般に知られる鞄用の錠金具は、錠金具本体の側面形状、特に先端部から後端部に至る肉厚が全体として均一な構造として構成されており、この錠金具本体に対して、鞄の蓋板先端に取付けられた閉止金具の係止鉤部を嵌合係止させる構造となっていた。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】 鞄の構造、特に手提げ構造をした鞄の側面構造は図3に例示するように下端部の厚さよりも上端部の厚さが薄くなるよう上部に行くに従って順次内側に傾斜させた構造となっており、しかも、肉薄とされた鞄の上端部に対して、鞄の蓋板は鞄本体の下端部と同じ厚さを持たせた蓋板を閉止するよう構成しているのが一般的であり、鞄の蓋板は鞄本体に対して先端部のみが当接するよう傾斜状態で当接するよう構成されていた。

【0004】 これらの構造を持つ鞄に対し従来より装着されている錠金具は、鞄本体に取付ける錠金具本体の側面形状が、使用時における上端部から下端部に至る全体が上下均一な肉厚を持つよう構成されていたため、蓋板を閉止しようとする場合、蓋板に取付けられた閉止金具と鞄本体に取付けられた錠金具本体とが水平な状態を維持できず、閉止金具の先端部が錠金具本体に対して鋭角な傾斜角度を持ちながら嵌合操作を行わざるを得ず、スムーズな嵌合操作を行うことができないという欠点をもつていた。

## 【0005】

【発明の目的】 本発明はこれらの問題に対応しようとするものであり、以下のように構成した錠金具を提案することによりこの問題に対応できる鞄用の錠金具を提供せんとするものである。

2

## 【0006】

【発明の要旨】 本発明は、鞄本体に装着する錠金具本体と、鞄の蓋板部分に取付ける閉止金具との組合せからなり、錠金具本体の側面形状が、使用時における下端部の肉厚に対し、上端部の肉厚が著しく厚くなるよう傾斜させた構造としてなる鞄錠の錠金具を発明の要点としている。

## 【0007】

【実施例】 以下本発明の実施例を図面を参照して説明する。

【0008】 本発明の錠金具は、錠金具本体1とこれに着脱自在に嵌合する閉止金具2との組合せによって構成している。

【0009】 錠金具本体1は、鞄本体3の前面上方に取り付けるものであり、錠機構を内蔵する金具本体の側面形状が、使用時における上端部11が下端部12よりも肉厚となるよう傾斜を持たせた構造としている。(図2参照)

【0010】 なお、錠金具本体1の内部に装着する錠機構(図示しない)は公知の構造を持つ係止機構を自由に選択して装着すればよい。

【0011】 閉止金具2は、鞄の蓋板31の先端部に取付ける公知のものであり、側面形状が倒コ字状を呈するよう形成するとともに、先端部には係止鉤21が下向きに突設されている。

## 【0012】

【発明の効果】 本発明は上記のように鞄本体に装着する錠金具本体1を、使用時における上端部11が下端部12よりも肉厚となるよう構成したので、使用時には、鞄の蓋板先端部に取付けられた閉止金具2に対してほぼ平行な状態を維持できるようになり、閉止金具を錠金具本体1に対して極めてスムーズに嵌合係止させることが可能となり、従来の錠金具が具備していた各種の欠点を完全に解消できる優れた効果を発揮できた。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】 閉止状態における錠金具の正面図

【図2】 錠金具本体と閉止金具を分離して示す斜視図

【図3】 鞄の斜視図

## 【符号の説明】

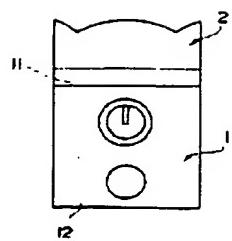
- |    |         |
|----|---------|
| 40 | 1 錠金具本体 |
|    | 2 閉止金具  |
|    | 3 鞄本体   |
|    | 31 蓋板   |

REST AVAILABLE COPY

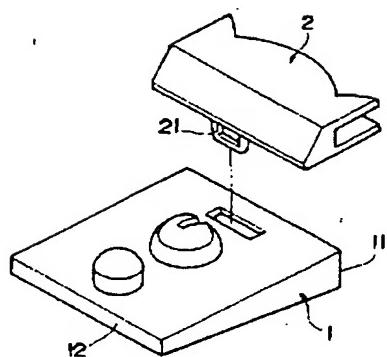
(3)

特開平 8-333939

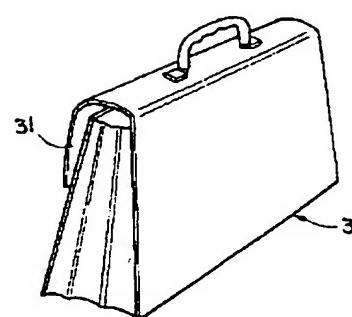
【図1】



【図2】



【図3】



BEST AVAILABLE COPY